

午前6時15分

いよいよ座り込み突入、その数300余名。国道58号には、(略)資材を積んだ20台余の米軍トラックが待機していました。

午前6時35分

ついに機動隊による住民の排除が始まりました。住民1人につき、機動隊4人がかりで両足首を持ってひっぱり、両脇のスクラムをひきはがします。(中略)年寄りも女性も無差別の強制排除が続きます。排除された住民は、機動隊の阻止線を突破し、何度となく座り込みます。

(広報おんな 136号 1991年10月)

また元収入役の當眞嗣長さんはこの「無抵抗の抵抗」の阻止行動を短歌に詠んでいます。

抜かれても また抜かれても 座り込む

老いも若きも 命を賭けて

緑なす恩納の岳(やま)は村民(むらびと)の

平和の砦 我等守らむ

(広報おんな 114号 1989年12月)



こうした座り込みのたたかいが何日も続きますが、村民は体を張って米軍の進入を食い止め、警察の排除に屈することはありませんでした。また村議会でも撤去意見書を採択、県議会議員団の東京行動、県内外からの手厚い支援を受け、粘り強いたたかいを続けました。

このたたかいは子どもたちにもしっかりと伝わったことが「第二回 少年の主張

大会」での当時中学3年生の発表からうかがえます。

恩納岳にある演習場の基地ゲートに、座り込む地域住民、そのほとんどはお年寄りです。その抵抗は何を意味するのでしょうか。あの姿は、(略)体をはってまでも守ろうとする平和の重みを、沖繩に生きる私達に教えてくれているような気さえします。

(広報おんな 第135号 1991年9月)

#### ◆訓練施設撤去と続く実弾射撃演習

結果として米軍は2棟の訓練施設を建設しましたが、その後使用することができず、1992年7月、建物を撤去しました。しかし、撤去と同時に村民が求めた実弾射撃演習反対の声は届かず、現在もキャンブ・ハンセンでは実弾射撃演習が繰り返され、2008年からは陸上自衛隊も共同使用し、演習を実施しています。30年前、村民が廃止を求めた「生命を危険にさらす」実弾演習は継続し、未解決のままです。

(瀬戸)

#### 【参考文献】

- ・「恩納字誌」字恩納自治会(2007年)
- ・「広報おんな 縮刷版」(101号)2000号 昭和61年〜平成9年)
- ・「山死して国栄え 山死なば村滅ぶ」特殊部隊訓練場建設及び実弾射撃演習反対恩納村実行委員会(1991年)

現在恩納村博物館で開催中の「復帰から半世紀を迎えたうんな展」(12月4日:月曜・祝日の翌日が休館)にて、「基地と恩納村」というテーマで恩納村の基地問題について展示しています。ぜひお越しください。